



伝統行事と人々の往来



環境マネジメント学科
福嶋 義宏 教授

私は京都市で生まれました。家は市内の北東の小山の麓にあり、明治期の陸軍参謀本部が作成した「5万分の1」地図では完全に町はずれの山の麓で、出町と呼ばれる天皇の居住された御所の北東の角にある商店街から、田畑が数キロ続いたところ。毎年、8月16日、お盆の送り火で先祖を供養する行事として「妙」と「法」という2つの火文字を灯し続けている地域にある小学校に入学しました。と、言っても私を含む3割程度の学童は小学校から南に1キロほど離れた、「新興」の「町」から来た子とみられていました。松ヶ崎では送り火の前日、題目踊りという盆踊りも鎌倉時代から続いています。そこでは、代々各家の長男だけが、各戸に割り振られた、火床にまきを運ぶことが決まりごとでした。おそらく、宗教的圧迫を避けた日蓮宗の一集団が結束を固め、村を強く維持するための象徴として、送り火と題目踊りの行事を始めたと言われています。

だからと言って、私たち「町」の子らは、松ヶ崎の学校近くに住む子供たちと、決して仲が悪かったわけではありません。卒業以来、55年過ぎた今でも、小学校のクラス会が頻りに開かれ、かつてのヤンチャ坊主は学校や地域の行事の指導者として、行事を保存・発展させる

ことを当然のことと考えているようです。そして、その松ヶ崎や修学院から福井県小浜に抜ける山越えの街道は、京都へ魚を運ぶ重要な道で、「鯖街道」と呼ばれていました。

さて、わが鳥取環境大学は鳥取市の南南東約5キロの新興住宅地域の一等地に位置する閑静なところにあります。私の研究室の窓からは、天気の良い日には扇ノ山や氷ノ山のほか、岡山県との境界となる那岐山などが視界に入ります。

京都では、鳥取については、因幡の白兔の物語を知ってはいましたが、これは子供の頃に聞いた神話のひとつです。先日、家内と白兔海岸へ行った際、海岸から40～50メートルほどの丘陵地状の高台に、タブなどの照葉樹林に囲まれて白兔神社(写真)が祀られていました。

一方、自然を素直に歌い上げている万葉集の歌人は、大和だけでなく、因幡や石見へも往来していました。万葉集の歌人であり、編纂に係った大伴家持は、大学のある若葉台の



白兔神社

北東、国府で因幡国守の任に当たったそうです。

8世紀の中ごろ、家持はといった道の通って因幡に入ったのでしょうか。よくわかりません。本大学の図書情報課に勤務される足立徹さんの調べによれば、江戸期の伊勢参りには氷ノ山の北側にある旧道が使われていたようです。当初、想像していた戸倉越えや志戸坂越えではなく、但馬経由の旧山陰道がある時期の街道でした。しかし、それより約800年も古い奈良時代の家持はどこを通っていたのでしょうか。

出雲や伯耆、因幡は新羅など朝鮮半島から大きく影響を受けています。たたら製鉄による鉄器製造がその証拠のひとつで、さらに遡れば、すでに弥生時代に、大山の麓、妻木晩田(むきばんた)に大規模な弥生集落群があったそうです。道は変わっても、人の往来は、私が予想していたよりもずっと頻繁であったことを物語っています。江戸時代に伊勢参りが盛んであったと聞いてはいましたが、各地の特産物や地域の行事なども予想外に知られていたこととなります。例えば、用瀬(もちがせ)の離流しなどは京都の下鴨神社で行われる離流しと、どこが違っているのか、一度みてみたいものです。

今日的高速道路や新幹線が建設される以前から、人は旅を楽しんでいたと考えれば、日本人は昔から好奇心の強い、そして信心深い民族であったようです。逆に、伊勢参りがあったということは、ほとんどが農漁業と商いを生業としていたはずの因幡で、金銭的余裕や心のゆとりがあったことを意味しているのでしょう。

環境問題啓発コラム 第1回

環境保全行動:できることから始めよう!

環境政策経営学科 衣川 益弘 教授



環境を考えた配慮を何かやっていますか。温暖化をはじめとする地球環境保全が叫ばれていますが、家庭部門の対応が大幅に遅れています。省エネルギーや公共交通機関の利用が叫ばれ、その重要性は、多くの人が認識しているものの、「誰もやっていないから」、「私ひとりではどうにもならない」と考え、利便性を犠牲にしてまで取り組むことに抵抗があるようです。

そこで、朝起きてから、夜眠るまでの日常生活

の中で、無理なく少し工夫すれば出来ることから取り組んでみてはいかがでしょうか。

朝、まず歯磨きをしますね。ここで少し環境のことを考え、歯磨きのやり方を考え実践してみよう。

「歯磨き粉は、どれだけ付ければいいのか。」「水は流し放してなく、必要量をコップに受けているか。」「顔を洗う水や石鹸の量は、これでいいのか」など、その方法は様々あり、あなたの選択が、

環境保全に繋がるのです。また、ムダを省くことにもなります。毎日の通勤、通学、洗濯、炊事、買い物など、環境を考えたライフスタイルを再構築してみてもいいのではないでしょうか。一人ひとりの小さな改善の積み重ねが大きな結果となり地球環境の保全につながります。